

資料収集の現状

1. 全体の資料数とその内訳

表1にみるように令和元年6月10日の集計値では総資料数は約20万点となっています。この内訳は一次資料87.7%、二次資料12.3%となっており、一次資料が大部分を占めています。(表1)

一次資料の内訳についてみると、紙資料と写真資料の割合が多くなっています。

紙資料の大半は応援メッセージ、さまざまなイベントで配布されたプリント、原子力災害からの避難の際に生じた資料等となっており、写真資料にはデジタルデータ、印画紙に現像された写真、フィルムを借りてデジタル化した写真等が含まれています。

一方、一次資料全体から見てモノ資料が少なくなっていますが、これは、原子力災害を中心に扱う当施設の趣旨に合わせて、原子力災害に関する資料を中心に収集しているためです。

二次資料では、冊子・会報の割合が多くなっています。これらには、市町村を含めたさまざまな団体が作った年報、会報や福島県の各部局が作った報告書等が含まれています。

表1 形態別資料点数

資料分類	資料形態	形態別内訳 (%)
一次資料	モノ	3.4
	紙	49.2
	写真	32.8
	映像・音声	2.3
二次資料	図書・雑誌	0.9
	冊子・会報	10.1
	新聞	1.2
	視聴覚資料	0.1
資料点数合計		100 (205,622点)

次に提供種別に注目してみると、資料全体の大部分を寄贈資料が占めていることが分かります。しかし、モノ資料だけを抽出した場合、寄託資料の割合が多くなっています。モノ資料の大部分は被災自治体から寄託による提供となっていることから、今後も、施設として資料の寄託者との関係構築・維持に努めてまいります。



図1 提供種別による資料の割合

2. 地域別にみる収集資料

県内を優先して収集を進めていることから、表2にみるように福島県内に直接関連する資料が多くなっています。

なお、図2より、県外資料については、秋田県を除く全県から資料が集まっています。

表2 地域別資料 (%)

海外	0.5
県外	18.3
県内	60.8
全国	20.4
合計	100 (214,447点)

注)複数地域に関係する資料はダブルカウントしている。

図2 全国にみる収集資料点数

(凡例がやや変則的なことに注意)

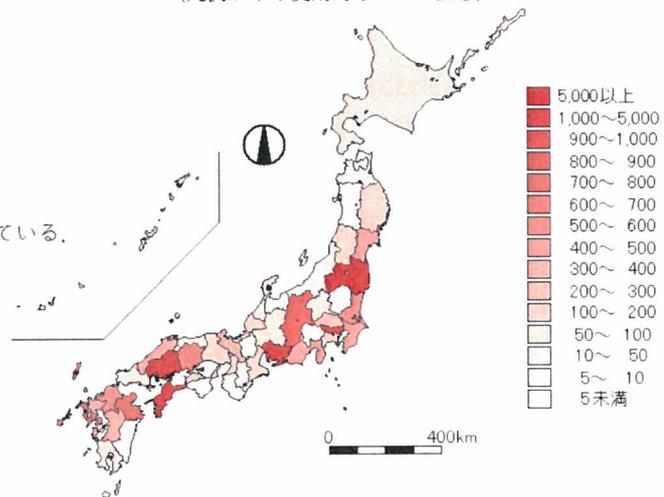


図3より、福島県内の収集資料の分布をみると、福島県内の資料分布は浜通りが多く、会津地方に関わる収集物が少なくなっています。これは震災の大部分をなす、津波と原子力災害が起きた浜通りを中心に資料収集したためです。今後、液状化が顕著であった中通りや、多くの県民が避難した会津地方の震災関連資料等にも目を向けながら、資料収集を進めてまいります。

図3 市町村別にみる収集資料の点数 (凡例がやや変則的なことに注意)

